

中村邦生の会

景清

番組

おはなし

関幸彦(日本大学教授)

狂言

磁石

シテ・つば 野村万蔵

アド・田舎者 河野佑紀
小アド・宿屋 能村晶人

能

—— 休憩二十分 ——

景清

シテ連・人丸 狩野祐一
シテ・景清 中村邦生

ワキ連・人丸の従者 則久英志
ワキ里人 宝生欣哉

大鼓 國川純
小鼓 大倉源次郎
笛 松田弘之

後見 内田安信
狩野了一

地謡
友枝真也 大川村定
内田成信 香川靖
友枝雄人 友枝昭世
金子敬一郎 長島茂

終了予定時刻 四時四十五分頃

チケット料金

全 自由席
(座席指定可/指定料¥1,000)

一般券	正面・脇正面	¥6,000
	中正面	¥5,000
	二階席	¥3,000
学生席(二階席)		¥2,000

チケット販売開始は、9月頃の予定

あらすじ

景清(かげきよ)

屋島合戦で武名をあげた悪七兵衛景清のその後を語った作品。日向宮崎の里を舞台にこの地に流された景清は、盲法師として乞食同然の境涯を送っていた。娘の人丸は父の存命を聞き従者ともども鎮西におもむき懐旧の涙に咽ぶ。親子の情愛を主題としつつも、その絆をあえて断ち切る景清。永遠の別れを伝えるその姿はいかにも敗れし者の落魂が示されている。父の無常を怨む人丸の気持ちと、それをわかりつつ煩惱と闘う景清の心情がしめやかに表現されている。「平家物語」を原典とするが、この作品には鍛引きの話(巻十一「弓流」)がわずかに見える程度で、作品の骨格・肉付けは後世の伝承からの造形といえそう。記録・実録の類には見えない景清像が語られており、「景清という記憶」でもある。せめぎ合う記録と記憶の織りなす世界を堪能するのも楽しみの一つといえそう。

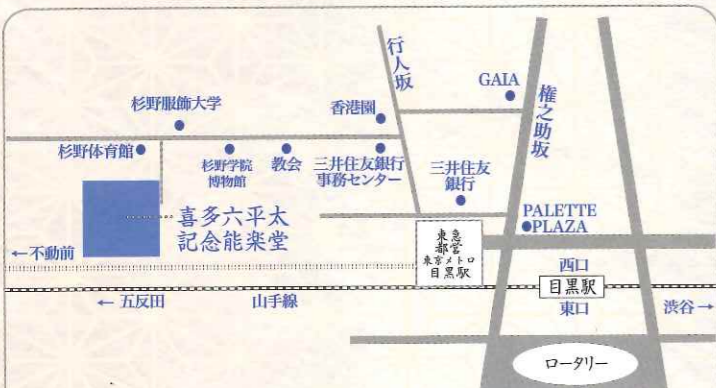
磁石(じしゃく)

上洛しようとした男がその途中で勾引(こういん)すなわち人買に遭遇する。あやうく人買に売られそうになった男は、太刀を振りかざし追いかけてきた人買に、自分は「磁石」の精であると名乗り、太刀を飲み込むぞと脅かし、危難をのがれる。禍いに際しての機知に富む知恵もこの作品の主題といえよう。さらに横行する人買の姿に中世的世界が活写されている。

*なお、会場での撮影・録画・録音は、堅くお断りします。
又、携帯電話等、音の出る物もご遠慮お願いいたします。

☆お問合せ

・中村邦生の会 TEL03-5310-5690
・喜多六平太記念能楽堂 TEL03-3491-8813



〒141-0021 東京都品川区上大崎4-6-9

*JR線・東急目黒線・都営三田線・東京メトロ南北線ともに目黒駅下車、徒歩7分

平成29年11月3日(金・祝)午後2時始
喜多六平太記念能楽堂